

# 一般社団法人 日本土壌肥料学会 2020 年度通常総会

## 議事

### 第 1 号議案 2019 年度事業報告、事業報告の附属明細書、 収支決算報告および監査報告

#### I. 2019 年度事業報告 (2019 年 3 月 1 日～2020 年 2 月 29 日)

##### 1. 定期刊行物および資料の刊行

###### (1) 定期刊行物

- 1) 日本土壌肥料学雑誌 (会誌) は、第 90 巻第 2 号～6 号、第 91 巻第 1 号の計 6 冊を刊行した。掲載した論文数は次の通りである。報文 22 編、ノート 11 編、技術レポート 8 編、講座 3 編、総説 1 編、資料・国内外情報等 26 編、学会賞受賞論文要旨 3 編、技術賞受賞論文要旨 1 編、奨励賞受賞論文要旨 5 編、技術奨励賞受賞論文要旨 3 編、ニュース (地域の動きを含む)、書評、欧文誌 Vol.65 掲載論文要旨、合計 565 頁、ほかに第 90 巻総目次、キーワード索引、著者名索引、会員消息、会誌投稿規程、原稿執筆規程、編集委員会だより、学会だより (土壌教育活動だよりを含む) 等。
- 2) SOIL SCIENCE AND PLANT NUTRITION (欧文誌) は、Vol.65, No.2～No.6 および Vol.66, No.1 の計 6 冊を刊行した。掲載した論文数等は、報文 72 編 (Full65 編、Short7 編)、総説 6、SSPN Award 等 5 編、会誌報文抄録等、合計 762 頁となった。欧文誌の配布数は、名誉会員 11、正会員 320 (うち海外 26)、学生会員 66 (うち留学生 65)、国内寄贈・交換 5、海外寄贈・交換 16 等であった。
- 3) 日本土壌肥料学会講演要旨集 (第 65 集、293 頁) を 2019 年度静岡大会 (9/3～5) に際し、電子媒体として刊行した。

###### (2) その他の刊行物

Springer 社より The Soils of Japan の刊行に向けて編集作業を進めた。

##### 2. 講演会および研究会等の開催、支援

###### (1) 「土と肥料」の講演会

2019 年 5 月 11 日、通常総会終了後に、東京大学山上会館において「土と肥料」の講演会を開催した。テーマは「田んぼの土と肥料を考える～カリとイオウの欠乏を例として～」、講演者と演題は中田 均氏 (富山県農林水産総合研究センター) 「富山県におけるカリ不足土壌の現状と課題」および菅野均志氏 (東北大学大学院) 「水稻におけるイオウ欠乏の現状と対策」であった。本講演会は日本学術会議の後援を受けて実施した。

###### (2) 2019 年度年次大会

- 1) 2019 年 9 月 3 日 (火) ～5 日 (木)、静岡大学農学部 (静岡市) において年次大会を開催した。口頭発表題数は 249 題、ポスター発表題数は 212 題、合計 461 題であった。大会への参加者数は 762 名であった。
- 2) シンポジウムは、公開シンポジウムを含めて 6 つのテーマのシンポジウムを実施した。  
4,7,8 部門：気候変動型生理障害を植物栄養の視点から考える【農研機構との共催】  
3,4,6,7,8 部門：理想の農業を追求するーサステイナブルで革新的な食糧生産を支える基礎研究と現場技術

- 6,7,8 部門：土壤肥沃度の長期的変動の評価と管理—パラダイムシフトの時代に—  
 4 部門：【公開シンポジウム】静岡のスマート農業の今とこれから  
 1,6 部門：水田作の大規模化に対応した土壤物理性の診断と対策～データ駆動型水分管理を見据えて～  
 1,2,3,8 部門：土壤団粒構造と土壤プロセス 2  
 3) ミニシンポジウムは、以下に示すテーマについて実施した。  
 5 部門：日本土壤インベントリーの利活用に向けた制度づくりと土壤図の精度向上を目指して  
 9 部門：土壤教育の世界標準を日本から発信する  
 4) 静岡県コンベンションアーツセンターグランシップにおいて、以下の講演が行われた (9/4)。
- 第 64 回日本土壤肥料学会賞受賞者
- ・高橋 正：火山灰土壤の多様性の解明—アルミニウム-腐植複合体の機能を中心に—
  - ・豊田剛己：連作障害の原因となる土壤伝染性病原菌・線虫の生態、診断、防除に関する研究
  - ・早津雅仁：土壤微生物の物質変換機構の解析とその未知機構解明への展開
- 第 24 回日本土壤肥料学会技術賞受賞者
- ・原 嘉隆：水稻湛水直播のためのべんモリ種子被覆技術の開発
- 2019 (平成 31) 年度日本農学賞・讀賣農学賞受賞記念講演
- ・馬 建鋒：作物のミネラル輸送機構に関する研究
- 特別講演
- ・小崎 隆：R. Lal 博士の第 35 回日本国際賞受賞の意味するもの—今、国内外の土壤・植物栄養学コミュニティは何をなすべきか—
  - ・Rattan Lal：Managing Soils for a Negative Feedback to Global Carbon Cycle and a Positive Impact on Food and Nutritional Security (地球の炭素循環に負のフィードバックを与え食料保障・栄養保障に正のインパクトを与える土壤管理を)
- 5) 第 37 回日本土壤肥料学会奨励賞受賞者 (須田碧海、西田 翔、仁科一哉、増田寛志、横正健剛) 及び第 8 回日本土壤肥料学会技術奨励賞受賞者 (齋藤 隆、速水 悠、安田知子) の記念講演については、静岡大会一般講演会場で行われた。
- 6) 日本土壤肥料学雑誌論文賞受賞者 (金田吉弘・谷野弘和・高階史章・佐藤 孝・保田謙太郎、松中照夫・中村亜紀良・橋本亜弓) および SSPN Award 受賞者 (Mei Li・Michiko Yasuda・Hiroko Yamaya-Ito・Masumi Maeda・Nobumitsu Sasaki・Maki Nagata・Akihiro Suzuki・Shin Okazaki・Hitoshi Sekimoto・Tetsuya Yamada・Naoko Ohkama-Ohtsu・Tadashi Yokoyama) については、静岡大会ポスター会場に受賞記念ポスターを展示した。
- 7) 講演要旨集の大会期間中における冊子頒布をとりやめ、電子媒体 (PDF) を事前にダウンロードする方式を初めて採用した。

### (3) 2019 年度支部大会

- ・北海道支部：第 1 回支部評議員会 (6/6 北海道大学)、第 22 回野外巡検 (8/29、8/30 余市町、小樽市) を開催した。また、第 2 回支部評議員会、支部総会、秋季支部大会 (12/3 民活動振興センター「かでの 2・7」、札幌市) を開催した。野外巡検では土壤の色と分類 (褐色森林土、暗赤色土 (富塩基土)) をテーマとし、15 名が参加した。秋季支部大会には発表演題数 33 に加え、高校生による研究発表 1 件があった。支部シンポジウムでは、「国際土壤の 10 年に向けて-環境問題と土壤肥料-」をテーマとして 5 題の講演が行われた。
- ・東北支部：東北支部大会 (7/2～3 南相馬市民情報センター) では、支部役員会、支部総会、一般講演 (10 題)、ポスター発表 (17 題)、学会賞等受賞記念講演 (2 題) が行われ、

優秀ポスター賞 2 題を選定して情報交換会で表彰した。また、公開シンポジウム「福島県における除染後農地の現状と農業復興に向けた取組」を行った。

- ・関東支部：関東支部長野大会（11/30 長野市生涯学習センター）を開催し、幹事会、総会、一般講演（49 題、全てポスター発表）、高校生による研究発表（2 題）、特別講演（2 題）を行った。
- ・中部支部：第 164 回中部支部評議員会および研究会（5/29 名古屋国際センター）、第 165 回中部支部評議員会および研究会（11/29 名古屋大学）、第 80 回総会、第 99 回例会（11/27 名古屋大学）を開催した。また、土壤教育活動事業として、「土の不思議にせまる！」（7/21 豊田市自然観察の森）、岡崎北高校「連携講座」（8/23 豊田市自然観察の森）を開催した。
- ・関西支部：2019 年度関西支部講演会（12/5 鳥取県立生涯学習センター）では、World Soil Day にあたることを冒頭に述べて開会し、30 題の口頭発表が行われた。支部役員会（12/6 同会場）では、支部講演会およびシンポジウムを World Soil Day 企画の一つとする案など、支部会の運営について議論した。
- ・九州支部：11/14 に農研機構九州沖縄農業研究センター本所において、2019 年度九州支部例会（一般講演 30 題、九州支部賞受賞記念講演 2 題）、2020 年度九州支部賞選考委員会、常議員会を開催し、11/15 に同会場で支部総会を行った。また、支部の会員活動助成として、「究極のどろだんご」体験実施事業の経費を補助した。

#### （4）その他

- ・日本地球惑星科学連合 2019 年度連合大会（5/26～30）のセッション「流域圏の物質輸送と栄養塩循環—源流域から沿岸海域まで—」を共催した。
- ・第 32 回環境工学連合講演会（5/21 日本学術会議講堂）を共催した。
- ・第 56 回アイソトープ・放射線研究発表会（7/3～5）を協賛した。
- ・第 29 回環境工学総合シンポジウム（6/25～28 万国津梁館）を協賛した。
- ・静岡大会において、農研機構との共催シンポジウム「気候変動型生理障害を植物栄養の視点から考える」を開催した（9/4）。
- ・第 63 回粘土科学討論会（9/10～12 埼玉大学）を共催した。
- ・第 35 回近赤外フォーラム（11/18～20 タワーホール船堀）を後援した。
- ・日本腐植物質学会第 35 回講演会（9/18～19 稚内総合文化センター小ホール）を協賛した。
- ・日本ペドロジー学会主催 2019 世界土壤デーイベント「土壤モノリス標本の展示解説」（12/1 国立科学博物館）を共催した。

### 3. 研究の奨励および研究業績の表彰

学会賞等選考委員会（10/18）、論文賞等選考委員会（10/18）および第 4 回理事会（10/19）において、日本農学賞の候補者、日本土壤肥料学会賞、同技術賞、同奨励賞、同技術奨励賞、同貢献賞、論文賞および SSPN Award の受賞者が以下のとおり選定された。

#### 第 65 回 日本土壤肥料学会賞受賞者

- ・浅川 晋：水田土壌生態系におけるメタンの生成・酸化に関わる微生物の生態に関する研究
- ・俵谷圭太郎：菌根共生系のリン応答と持続的作物生産・環境修復への応用研究
- ・藤嶽暢英：腐植物質の分析法，特徴付けおよび反応性に関する研究

#### 第 25 回 日本土壤肥料学会技術賞受賞者

- ・柴原藤善：水田生態系における土壌微生物バイオマス窒素の動態解明と環境負荷低減技術の開発および琵琶湖流域における水質保全効果の定量的評価
- ・須藤重人：農耕地温室効果ガスの高精度測定法開発と温暖化緩和策研究への活用

#### 第 38 回 日本土壤肥料学会奨励賞受賞者

- ・ 一家崇志：チャのゲノム情報整備と栄養生理学に関する研究
- ・ 泉 正範：オートファジーによる葉緑体の分解経路に関する研究
- ・ 田中伸裕：イネの無機栄養吸収蓄積と成長制御に関する分子生理遺伝学的研究
- ・ 李 哲揆：土壌中の有機物由来の炭素循環と、有機物施用による植物病害の抑止に関する微生物の研究
- ・ 山本昭範：農耕地における一酸化二窒素の生成経路の解明と発生削減策に関する研究

#### 第 9 回 日本土壤肥料学会技術奨励賞受賞者

- ・ 蓮川博之：水田農業における温室効果ガス排出量削減技術の開発とその定量評価

#### 第 9 回 日本土壤肥料学会貢献賞受賞者

- ・ 原田靖生：変革期における新たな学会運営に向けた諸対応

#### 日本土壤肥料学雑誌論文賞受賞者

- ・ 江口定夫、平野七恵：日本の消費者の食生活改善による反応性窒素排出削減ポテンシャルと国連 SDGs シナリオに沿った将来予測
- ・ 南雲俊之、森田明雄：茶園のもつ二酸化炭素吸収源機能

#### SSPN AWARD 受賞者

- ・ Yoko Masuda, Hideomi Itoh, Yutaka Shiratori, Keishi Senoo: Metatranscriptomic insights into microbial consortia driving methane metabolism in paddy soils

## 4. 内外の研究者、技術者、他学会等との連携および協力

### (1) 日本農学会関係

- ・ 2019 年度日本農学会シンポジウム「SDGs を超える農学のブレイクスルー10/5」の開催に協力した。

### (2) 日本学術会議関係

- ・ 日本学術会議公開シンポジウム「サステイナブルな社会に向けた科学技術と自然界での炭素・水素・酸素・窒素の循環の調和」(4/12 日本学術会議講堂)を協賛した。
- ・ 日本学術会議土壌科学分科会・IUSS 分科会による公開シンポジウム「土と持続可能な開発目標 (SDGs) —アフリカの土・市街地の土—」を共催し、基調講演者として日本国際賞受賞の Rattan Lal 博士 (オハイオ州立大・名誉教授) を本学会が招聘した。

### (3) IUSS、ESAFS 等関係

- ・ 国際測地学・地球物理学連合 (IUGG) (7/26~31 フランス・パリ) に代表者を派遣した。
- ・ ESAFS (11/3~7 台北) に代表者および役員を派遣した。
- ・ IUSS の Commission/WG 会議 (2019/2~2020/3) に Commission Chair/Vice Chair と Working Group Chair を派遣した。

### (4) 定期刊行物の寄贈・交換

内外の研究機関に対して定期刊行物を寄贈・交換した。

- ・ 日本土壤肥料学雑誌 国内 10、国外 12
- ・ Soil Science and Plant Nutrition 国内 5、国外 16

## 5. 本学会の委員会等活動

### (1) 企画委員会

- ・「土と肥料」の講演会を企画し、東京大学山上会館で開催した(5/11)。次年度も、2020年度第43回総会後(5/9)に「土と肥料」の講演会を開催し、日本学術会議の後援を受けるよう企画する。

### (2) 土壌教育委員会

- ・静岡大会において「高校生による研究発表会」を大会1日目の13:00~14:00に開催し(9/3)、14校18課題の発表が行われた。それぞれ発表者が説明し、大会参加者と熱心な質疑応答が行われ、最優秀ポスター賞1課題、優秀ポスター賞3課題を選出し表彰した。また、参加校のうち希望校7校に宿泊費の一部を補助した。
- ・女子中高生夏の学校2019ポスター展示・キャリア相談に委員が協力した。
- ・こどもエコクラブ全国一斉活動「大地を感じ・大地を知る ジオアクション JAPAN」の実施に当たり、(公財)日本環境協会こどもエコクラブ全国事務局からの協力依頼に対応し、アクションプログラムに係る監修・協力を行った。

### (3) 財政基盤整備委員会

- ・年度経常収支の逼迫が続いていることから、会員サービスおよび学会活動の維持・向上を図りつつ、学会財政の健全化を果たすため、課題の抽出と対応策の検討を継続している。

### (4) 広報

会誌の会告およびニュース、学会ホームページ(HP)、フェイスブック(FB)、メーリングリスト(ML)によって、学会の活動概要、各種募集情報、シンポジウム等イベント情報、年次大会・支部会開催情報等を発信している。

- ・学会HPに「土と肥料」の講演会概要等の記事および講演要旨等を掲載した。
- ・学会HPに2019年度日本土壌肥料学会賞等授賞式・記念講演会の概要を掲載した。
- ・会誌編集委員会と協働して学会HPに「日本土壌肥料学雑誌“講座”アーカイブ」および「日本土壌肥料学雑誌“シンポジウム概要”アーカイブ」を掲載した。
- ・学会HPに掲載した記事をFBにも掲載した。
- ・「エコプロ2019(12/5~7東京ビッグサイト)」に日本ペドロロジー学会とともにブースを出展した。ブースには幅広い世代の見学者の来訪およびマスコミの取材があった。

### (5) 国際土壌の10年関連活動

- ・2019年(第35回)日本国際賞受賞者のRattan Lal博士を招聘し、日本学術会議公開シンポジウムおよび2019年度日本土壌肥料学会静岡大会において特別講演を行うとともに、会誌記事、学会HP等を通じて受賞の意義と本学会の使命をアピールするなどの啓発活動を行った。講演会の概要、要旨、関連資料等は、学会HP、会誌、欧文誌にも掲載した。
- ・前年に引き続き、「国際土壌の10年」における日本土壌肥料学会の国際関連活動に対するご支援のお願いに関する趣意書、募集要項および支援申込書を作成し、会誌の発送に同封するとともにメーリングリストも活用し、寄付を呼び掛けた。

### (6) 男女共同参画学協会連絡会への対応

- ・女子中高生夏の学校2019ポスター展示・キャリア相談に出展した(8/10国立女性教育会館)。ポスター展示のテーマを「国際土壌年と国際土壌の10年」とし、実物の断面標本を用いて土壌の成り立ち、食糧・環境問題との関わり等を解説した。
- ・連絡会が企画する「男女共同参画学協会における女性構成比率調査に対応した。

1) 2020年2月末日における会員数は次のとおりである。

正会員 1,723名 (うち会費免除正会員 70名、外国正会員 26名)、賛助会員 37社、名誉会員 11名、学生会員 332名 (うち留学生 71名)、国内団体購読会員 98団体 合計 2,201名・団体

2) 2019年度中の入退会者数は次のとおりである。

入会：正会員 60名 (外国正会員 2名)、学生会員 116名 (うち留学生 12名)、名誉会員 1名 合計 177名

退会：正会員 144名 (うち会費免除会員 17名、外国正会員 10名)、学生会員 144名 (うち留学生 24名)、名誉会員 2名、国内団体購読会員 3団体 合計 293名・団体

## (2) 会議

1) 総会：2019年5月11日、東京大学山上会館において第42回通常総会が開催された。本総会においては、①2018年度事業報告、収支決算報告、公益目的支出計画実施報告および監査報告、②2019年度事業計画案および収支予算案、③役員への信任・退任、④名誉会員の推薦、⑤総会議事録署名人の選任について審議され、原案どおり承認された。その議事録を会誌90巻第3号に掲載した。

2) 理事会：第42回総会後に総会会場において1回(5/11)、学会事務所において6回(5/25、8/3、10/19、12/14、1/25、3/21)開催され、所要の事項・会務を報告・審議した。その議事録を会誌のニュース欄に掲載した。主要な議題としては、年次大会での学会賞等授賞式並びに記念講演のタイムスケジュールおよびシンポジウムの構成、デジタル化する大会講演要旨集の準備、会誌および欧文誌の企画・投稿・編集・刊行の状況、欧文誌編集委員の増員、土壌教育委員会の諸活動、他学協会・機関とのイベントの共催・後援・協賛、ESAFS サポートオフィス HP の立ち上げ・小崎 IUSS 会長の活動支援・Japan Prize 受賞のラル博士の招聘と講演会開催などの国際活動関連の諸案件、若手会員海外渡航費の支援、等について審議し、実施した。

3) 部門長会議：①第1回部門長会議はメール会議で実施した。静岡大会におけるシンポジウムの公募に対して6件の応募があり、いずれも採択された。②第2回部門長会議(6/1)においては、静岡大会のプログラム編成、シンポジウム企画案、ポスター賞の各部門への割当数及び審査スケジュール、部門長・副部門長の交代等について検討した。③第3回部門長会議(10/24)においては、2019年度静岡大会から2020年度岡山大会への運営委員会引継ぎを踏まえた大会シンポジウム計画、進歩総説企画および欧文誌への部門長会議からの提案等について検討した。

4) 2019年度学会賞等選考委員会：学会事務所において、会長を議長として開催し、2020(令和2)年度日本農学賞候補者、第65回日本土壌肥料学会賞、第25回同技術賞、第38回同奨励賞、第9回同技術奨励賞および第9回同貢献賞の受賞者を選考した(10/18)。その結果は第4回理事会(10/19)での承認を経て、会誌90巻第6号に掲載した。また、同日午前、学会事務所において、論文賞等選考委員会を開催し、日本土壌肥料学雑誌論文賞受賞論文と SSPN Award 受賞論文を選考した。その結果も第4回理事会での承認を経て、会誌90巻第6号に掲載した。

5) 会誌編集関係：①3回の会誌編集委員会を開催した(4/23、6/25、9/3)。②論文の投稿・審査状況に特に問題となる事項はないものの、よりスムーズな審査に向け審査システム・マニュアル上の課題を検討した。③2020年度以降の講座テーマを検討した。④技術レポート

- を中心に投稿規程・執筆規程を改定した。⑤会誌は第91巻1号(2020)まで、日本土壌肥料学会講演要旨集は第65集(静岡大会2019)までJ-STAGEに掲載した。会誌は発刊から1年後を目安に公開するが、会員はID・パスワードを入力すれば最新号から閲覧できるようにしている。また、講演要旨集は大会終了後できるだけ速やかに公開するようにしている。
- 6) 欧文誌編集関係：①2回の欧文誌編集委員会(5/11、9/3)を開催した。②投稿数は例年と変わらず、とくに問題はない。③部門長会議提案の企画投稿レビューを進めた。④学会賞受賞者によるレビューは4件を66巻1号に掲載した。⑤SSPN特集セクションでは、3件の企画を進め、このうち、Soil C and N by LUMC (Soil carbon and nitrogen dynamics by land use and management changes in East and Southwest Asian countries)は66巻1号に掲載した。⑥SSPNのインパクトファクターが2018年の1.128から1.415に上昇した。⑦T&F社の担当者が交代した。
- 7) 支部における会議
- ・北海道支部：第1回支部評議員会(6/6 於北海道大学、札幌市)、第2回支部評議員会、支部総会、秋季支部大会(12/3 於民活動振興センター「かでる2・7」、札幌市)が開催された。
  - ・東北支部：支部役員会および支部総会(7/2～3 於南相馬市民情報センター)が開催された。
  - ・関東支部：支部幹事会、支部総会(11/30 於長野市生涯学習センター)が開催された。
  - ・中部支部：第164回支部評議員会(5/29 於名古屋国際センター)、第165回支部評議員会(11/29 於名古屋大学)、第80回総会、第99回例会(11/27 於名古屋大学)が開催された。
  - ・関西支部：支部総会および支部役員会(12/5 於鳥取県立生涯学習センター)が開催された。
  - ・九州支部：支部常議員会、支部賞選考委員会(11/14 於農研機構九州沖縄農業研究センター一本所)および支部総会(11/15 於同会場)が開催された。
- 8) 支部長連絡会：支部・本部間、支部間の連携を深めるために支部長連絡会を開催し(9/5)、支部の情勢、会誌への支部動向の掲載、講演要旨のスタイル、年次大会持ち回りなどについて情報共有と意見の交換を行った。
- (3) その他
- ・若手会員の海外学会等の発表渡航費補助金支給者の選考を行い、前期14名の支援者を決定した。その後辞退者が2名あり、12名に渡航費の一部支援を行い、その報告を国内外情報として会誌に掲載した。後期の申請は0件であった。
  - ・2021年度年次大会は、信濃卓郎氏(北海道大)を大会運営委員長とし、2021年9月14(火)～16(木)、北海道大学において開催することを決定した。
  - ・外部顕彰へ学会より推薦を行い、馬建鋒会員が2019(平成31)年度日本農学賞・讀賣農学賞を受賞し、犬伏和之会員がESAFS Awardを受賞した。

## Ⅱ. 2019年度事業報告の附属明細書

事業報告の附属明細書として記載すべき事項はない。